

学校支援を積極的に進めよう

～子ども・学校に寄り添うPTAをめざして～

豊橋市立高豊中学校PTA

1 学区および学校の概要

本校は、豊橋市の南に位置し、学校の周辺には畑やビニールハウスが広がり、校区内には、ササユリが咲く「ささゆりの里」やアカウミガメの産卵場所で有名な「表浜海岸」もあり、美しい自然に恵まれた素晴らしい環境にある。全校生徒は402人、学級数は15学級で、高豊中生徒の指針である「くろしお魂（くじけない心 労を惜しまぬ体 信頼する仲間 大きな夢）」のもと、学習、行事、部活動などに積極的に取り組んでいる。

2 研究のねらい

「子どもたちのためにできることを」という思いのもと、子ども・学校に寄り添いながら学校支援を行っている。将来に渡り持続可能な活動にしていけるよう、組織および活動内容、任期を見直し、学校や地域で、積極的に支援を行っていきたいと考えた。

3 研究の仮説

PTA委員の組織および活動内容、任期を見直し、持続可能な活動にしていくことで、子ども・学校に寄り添った積極的な学校支援につながっていくであろう。

4 研究の方法

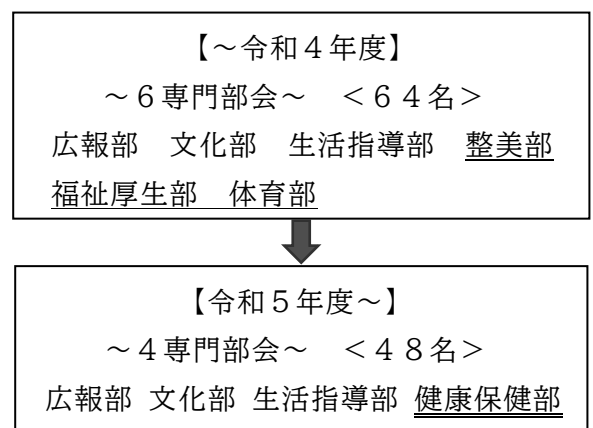
地区委員の定数を4分の3に、専門部の数を6つから4つに減らす。また、2年目の委員を置き、PTA活動そのものがスムーズに運営され、引継ぎが有効になされるかを検証していく。

5 研究の実践

(1) PTA組織について

PTA委員会の組織としては、各地区から3名ずつ選出された地区委員48名が、広報・文化・生活指導・健康保健の4つの専門部で活動をしている。

生徒数の減少や、活動の見直しの中で、将来に渡って持続可能なものとするため、令和5年度から委員数や専門部の在り方を見直しを行った。また、活動の継続性を考え、委員の3分の1については、任期を2年間とした。そして、2年目の委員が、それぞれの専門部の部長になることで、活動の引継ぎがスムーズに行われ、学校支援を継続的に実施できることにつながった。



(2) 地域で寄り添う

ア 資源回収

地域に貢献する活動として資源回収を実施している。5月には生徒が地域の世帯をまわり、資源を回収に行く方法で実施している。

この活動は、生徒たちが地域に出かけ、大人と一緒に活動をする貴重な機会になっている。地域についてよく知っている地区委員が、回収の仕方について、先生や生徒にアドバイスをしたり、生徒だけでは回収できないところを、車で回収をしたりして、学校・生徒と協力して回収にあたっている。また、委員だけでなく、回収を手伝ってくれる保護者も多く、子どもに寄り添った活動の中で、親子のふれ合いの場となったり、よい勤労観の育成につながったりしている。



イ 海岸クリーン活動

本校の伝統行事で、令和6年度で38回目を迎える。「ささゆりが咲き、アカウミガメが産卵する、この地域を私たちが守り続けていく」という生徒たちの思いでこの活動を続けており、この思いに応えPTAも協力している。当日は生徒といっしょにごみを拾ったり、生徒だけでは運



べない量のごみがでるので、これらを運搬するための車両を提供したりしている。自分たちの住む地域を生徒たちとともに清掃する活動は、「地域を大切にする」「地域とともに生きる」心を育むとても有意義な活動である。

地域での活動においては、地域をよく知る委員や、任期2年目の委員が、リーダーシップを発揮し、効果的な支援につながっている。

(3) 学校で寄り添う

ア 黒潮体育祭

5月に高豊中学校では体育祭（黒潮体育祭）を開催している。円滑な体育祭運営のために、PTA委員が駐車場係として学校に協力している。また、写真撮影、来賓受付などもPTA委員が請け負っている。委員の3分の1は、昨年度も経験している活動ため、経験者を中心に運営がされ、それぞれの係の仕事が、とてもスムーズに実施できている。当日は先生たちには体育祭運営に集中してもらうことができ、PTAとして陰ながら学校行事に関わることができている。

6 研究の考察・成果

組織の見直しを進めたこと、また、任期を工夫したことで、持続可能な形で学校支援を継続することができた。地域をよく知る委員や任期2年目の委員の存在が、子どもや学校の助けになっており、スムーズな運営の一助となった。また、地域や学校において、生徒に寄り添いながら活動することで、生徒とのふれ合いの機会が増え、生徒理解・学校理解につながった。

7 今後の課題

子どもを取り巻く環境は少しずつ変化をしており、私たちPTAも止まることなく変化していくことが必要である。一方「子どもたちのためにできることを」という思いはいつまでも変わらず大切にし、子ども・学校に寄り添いながら、今後も活動が続けていきたい。